

今回からシリーズで  
『京都市の橋の変遷』  
を持集します！

# みやこはし 京の橋しるべ

第7号！！

(平成27年3月発行)

## ◆ 京都市の橋の変遷 ①

京の橋の歴史をたどると、古くは奈良、平安時代の記録にさかのぼりますが、現存する橋は、明治時代以降に架けられています。

江戸時代まで、橋は主に木材を用いて建造されており、洪水や大火のたびに架け替えや修理が行われてきました。今回は、近代化により新しい材料を用いて、永久的な橋が造られ始めた明治時代から大正時代にかけての京の橋の変遷を紹介します。

## ◆ 明治時代の橋

### ① 公儀橋（江戸幕府管理の橋）の架け替え

江戸時代、京都市中には主要な街道を中心に100橋を超える公儀橋がありましたが、明治時代を迎えると、公儀橋は京都府の管理となり、架け替えが行われてきました。

中立売通と下立売通の堀川に架かる橋は、寛永3年(1626年)に幕府が建設して以来、御所と二条城を結ぶ橋として重要視されました。当時は、それぞれ「鶴橋」、「亀橋」と称されていました。

中立売通の橋は明治6年(1873年)に石造の永久橋に架け替えられ、「堀川第一橋」と名付けられました。続いて、明治7年(1874年)には下立売通の橋が石橋に架け替えられ、「堀川第二橋」となりました。両橋は現在も使われています。

三条大橋や五条大橋も江戸時代には公儀橋であり、三条大橋の明治13年(1880年)の架け替えでは、高欄は檜で造られ、擬宝珠で飾られた純和風の橋とされました。

五条大橋は明治10年(1877年)に架け替えをされ、高欄には欧風の白色の塗料が施されましたが、市民から不評を買い、後に擬宝珠高欄に戻しています。



堀川第一橋(明治6年)【現存】



堀川第二橋(明治7年)【現存】

両側が拡幅され、道路上からは見えにくいですが、堀川の遊歩道からは石橋であることが分ります。

## ② 琵琶湖疏水事業による橋の整備

琵琶湖疏水事業は、わが国最初の大土木工事として日本人自身の手で推進され、明治18年(1885年)に第一疏水工事に着手、明治23年(1890年)に全水路がほぼ完成しました。

この第一疏水には、明治37年(1904年)に、我が国で最も古いコンクリートアーチ橋の一つである山ノ谷橋が架けられており、現存しています。

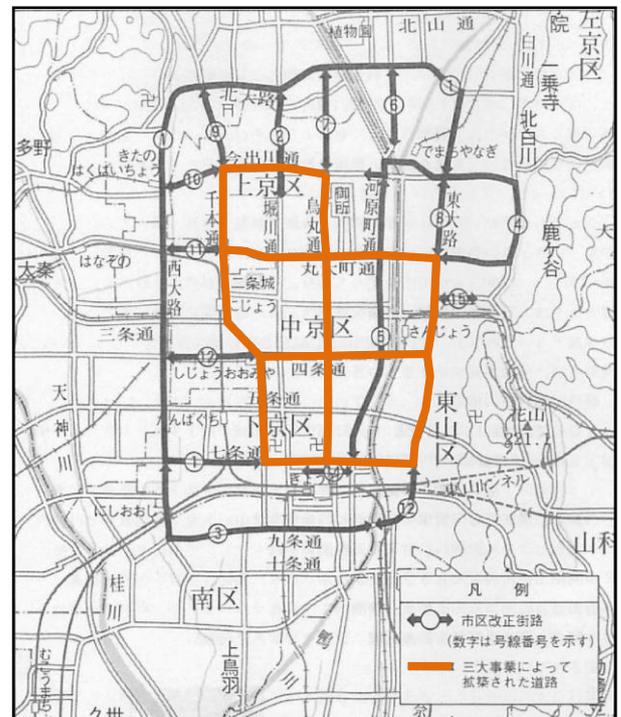


山ノ谷橋(明治37年)【現存】

## ◆ 明治時代中期～大正時代初期の橋

### ③ 京都市三大事業による橋の架け替え(拡幅)

明治中期から大正初期にかけて行われた京都市三大事業の一つである「道路拡築」により現在の中心市街の原型ができました。この事業によって、建設された主な橋は丸太町橋、四条大橋、七条大橋ですが、丸太町橋は老朽化のため平成3年(1991年)に、四条大橋は昭和10年(1935年)の洪水により架け替えられました。現在は七条大橋だけがその姿を残しています。

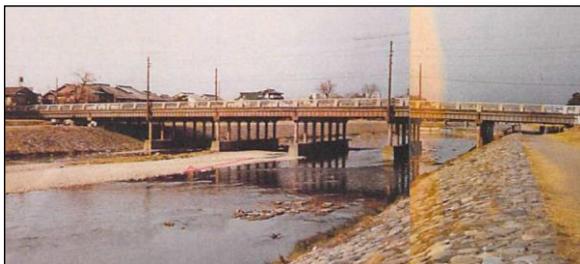


※第1期市電建設計画7線  
烏丸線 東山線 千本大宮線  
今出川線 丸太町線 四条線 七条線

#### 京都市の三大事業とは

- 1 第二琵琶湖疏水の建設
- 2 上水道の敷設
- 3 道路拡築と市電敷設  
※道路の拡幅に合わせた橋の架け替え

明治40年代になると木材に代わり、鋼やコンクリートを用いた橋が多く建設されるようになり、永久橋化が進みました。



丸太町橋(大正2年完成)



丸太町橋(平成3年架替)

次回は、大正時代以降の橋の変遷を紹介します。

## 〈京の橋の紹介⑦〉

### 七条大橋（しちじょうおおはし）

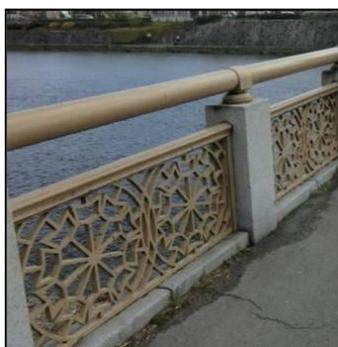
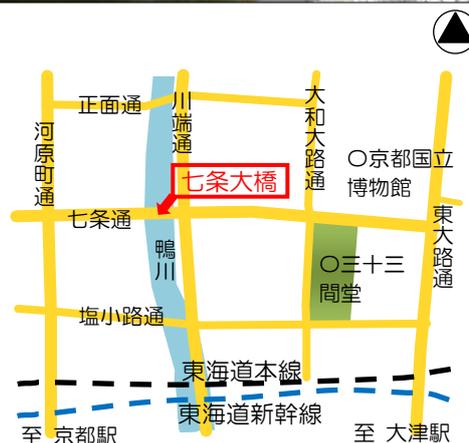
場 所：東山区下堀詰町  
道 路 名：一般府道梅津東山七条線  
河 川 名：一級河川 鴨川  
橋 の 種 類：鉄筋コンクリートアーチ橋  
橋 長：82m  
幅 員：18.1m  
完 成 年：大正2年（1913年）



七条大橋は、京都市三大事業の一つ「道路拡築と市電敷設」による七条通の拡幅に伴い、明治44年に着工し、大正2年に完成しました。

平成20年度には「黎明期のRCアーチの中で群を抜いて巨大であり、鴨川筋において明治期の意匠を残す唯一の橋として貴重な施設である。」との理由で土木学会選奨土木遺産に認定されています。

橋の構造は、スパン（支間の長さ）15.2m、ライズ（アーチの高さ）1.5mを基本構造とする鉄筋コンクリートのアーチ構造となっています。



京阪電鉄の地下化に伴い疏水が暗渠となり、疏水上の1径間が撤去されました。また、完成当時の高欄や照明灯は、戦時中に金属供出のため撤去されましたが、昭和62年に「三十三間堂の通し矢」をイメージした矢車模様の高欄に改修されました。

毎年1月中旬に三十三間堂で開かれる「大的（おおまと）大会」は新成人が晴れ着姿で弓を射る行事ですが、「新成人＝20歳」ということで、高欄は10本の矢が的に向かっている様子（2面で20本）をデザインのコンセプトにしています。

## ◆京の橋しるべについて

私たち建設局橋りょう健全推進課では、市民の皆様の安心・安全な生活を守るため、京都市が管理する「橋」の耐震補強と老朽化修繕を進めています。

その取組を市民の皆様にもっと知っていただくため、また、私たちの日常生活を支えるかけがえない「橋」について関心を持ってもらい、身近なものとして親しんでいただくため「京の橋しるべ（みやこのはししるべ）」というリーフレットを定期的に発行し、市民の皆様には「橋」にかかわる様々な情報を発信しています。

「道しるべ」は、道路に目的地までの距離や方向を示し、道案内のために設置されたものですが、「橋しるべ」は私たちの「橋」に関する取組などをわかりやすくお伝えして（案内して）いきたいということで名づけました。

発行・お問い合わせ 京都市建設局橋りょう健全推進課（電話 075-222-3561）

